

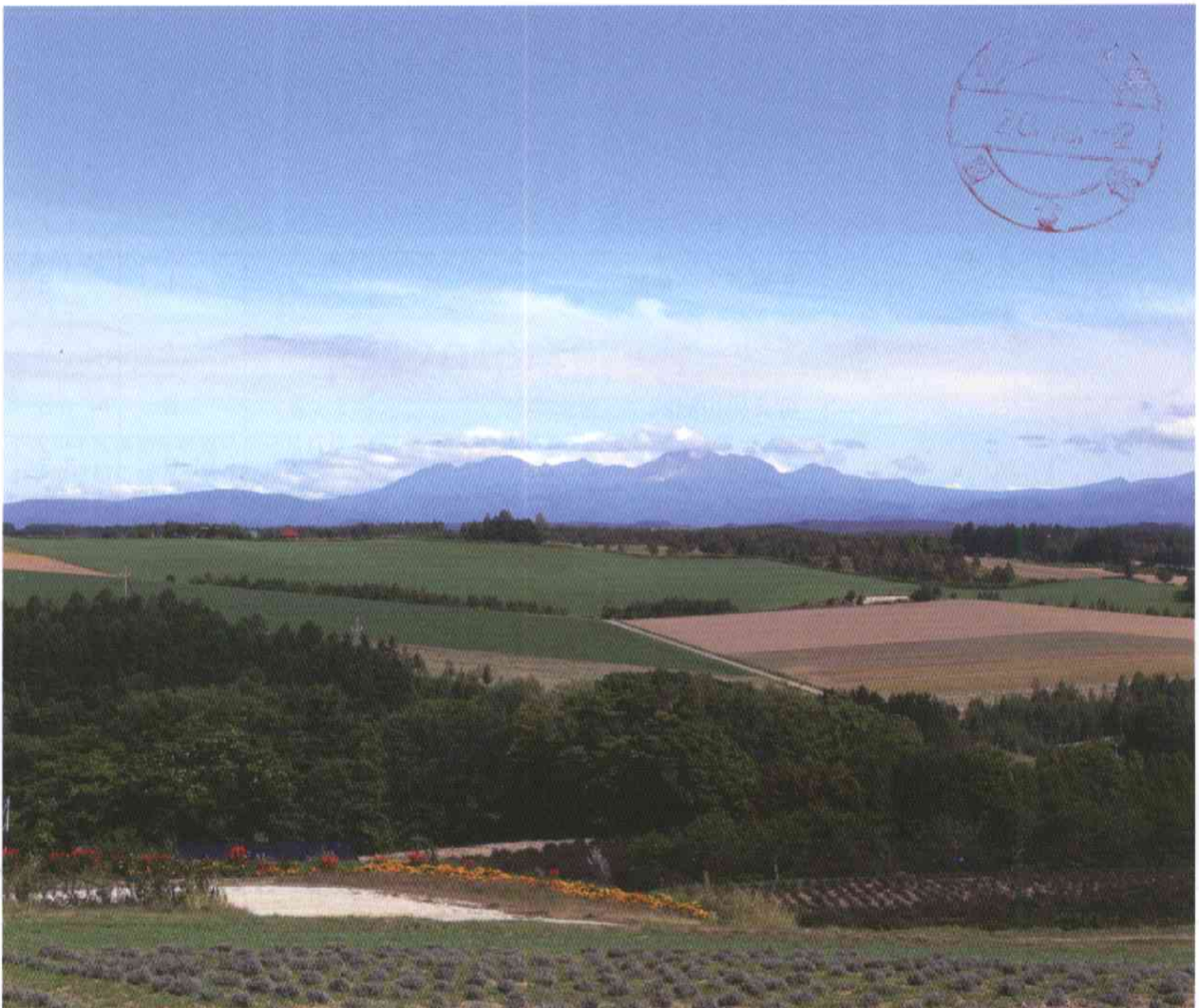
かぐらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 134 号

平成20年 9月30日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



早秋の大雪山連峰（上富良野町）

(写真撮影：学生支援課)

卒業生の動向（医学科）	2	音楽の夕べ	32
卒業生の動向（看護学科）	3	体育大会が開催されました	33
授業評価の公表	4	平成20年度解剖体慰霊式	33
医大祭2008が開催されました	30	大学内の土足解禁について	33
北海道地区大学体育大会バスケットボール大会が 開催されました	31	教員の異動	34
サマーコンサート	31	医大祭2008を終えて	佐藤 雅 34

卒業生の動向(医学科)

平成20年3月25日(火)に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

区 分		大学及び病院名等	平成19年度		
			男	女	計
進 学	道 内		0	0	0
	道内外その他		0	0	0
	小 計		0	0	0
就 職	道 内	旭川医科大学病院	10	7	17
		北海道大学病院	2	1	3
		旭川厚生病院	2	1	3
		市立旭川病院	3	0	3
		その他	23	10	33
	計		40	19	59
	道 外	大学関係病院	4	3	7
		上記以外の病院等	13	5	18
	計		17	8	25
	小 計		57	27	84
未 定 ・ そ の 他			8	4	12
合 計			65	31	96

上記以外の病院名

道 内：札幌徳州会病院、札幌手稲溪仁会病院、勤医協中央病院、道北病院、市立札幌病院、北海道がんセンター、札幌厚生病院、北海道社会保険病院、帯広厚生病院、恵庭恵み野病院、函館中央病院、名寄市立総合病院、斗南病院、札幌社会総合病院、社団法人北斗病院、遠軽厚生病院、市立函館病院、市立釧路総合病院、北見赤十字病院

道 外：東京大学病院、京都大学病院、自治医科大学、順天堂大学病院、横浜市立大学病院、水戸医療センター、関西電力病院、淀川キリスト教病院、名古屋第二赤十字病院、横浜市民病院、横浜栄共済病院、愛知厚生連昭和病院、京都市立病院、広島赤十字原爆病院、藤沢湘南台病院、長岡中央総合病院、尼崎医療生協病院、横浜医療センター、東北厚生年金病院、新小倉病院、市立甲府病院、沖縄南部徳州会病院

卒業生の動向(看護学科)

平成20年3月25日(火)に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

区 分		大学及び病院名等	平成19年度		
			男	女	計
進 学	道 内		0	0	0
	道内外その他		0	0	0
	小 計		0	0	0
就 職	道 内	旭川医科大学病院	2	11	13
		北海道大学病院	0	9	9
		KKR札幌医療センター	0	7	7
		北海道社会保険病院	0	3	3
		その他	2	23	25
	計		4	53	57
	道 外	大学関係病院	0	5	5
		上記以外の病院等	0	4	4
	計		0	9	9
	小 計		4	62	66
未 定 ・ そ の 他			1	3	4
合 計			5	65	70

上記以外の病院名

道 内：旭川赤十字病院、旭川圭泉会病院、札幌医科大学附属病院、札幌社会保険総合病院、北海道子ども総合医療療育センター、手稲溪仁会病院、NTT東日本札幌病院、日鋼記念病院、医療法人溪仁会西円山病院、勤医協中央病院、帯広厚生病院、倶知安厚生病院、札幌鉄道病院、深川市役所、中富良野町役場、和寒町役場、東神楽町役場、十勝保健福祉事務所、新ひだか町役場、帯広市役所

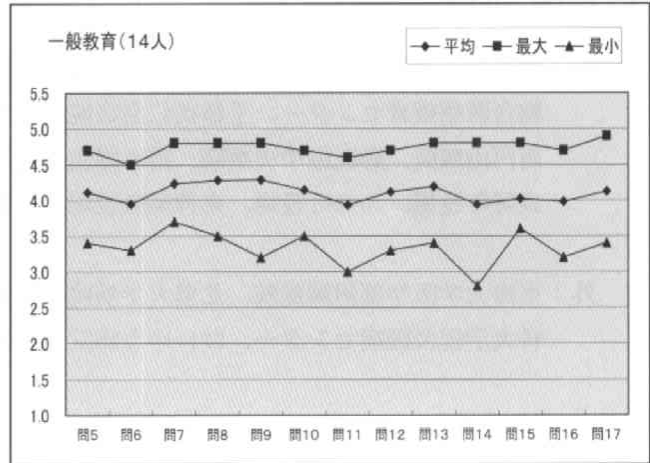
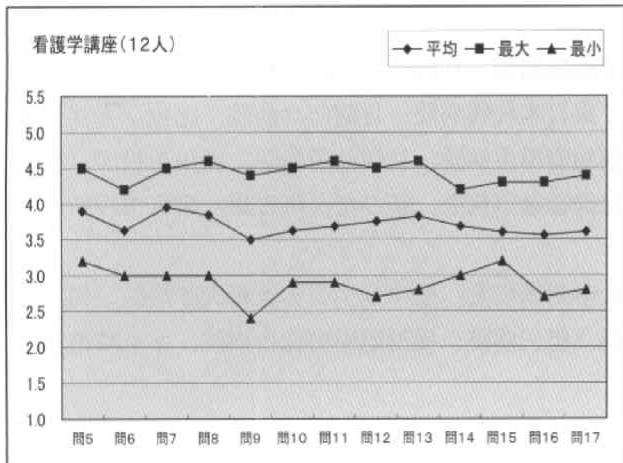
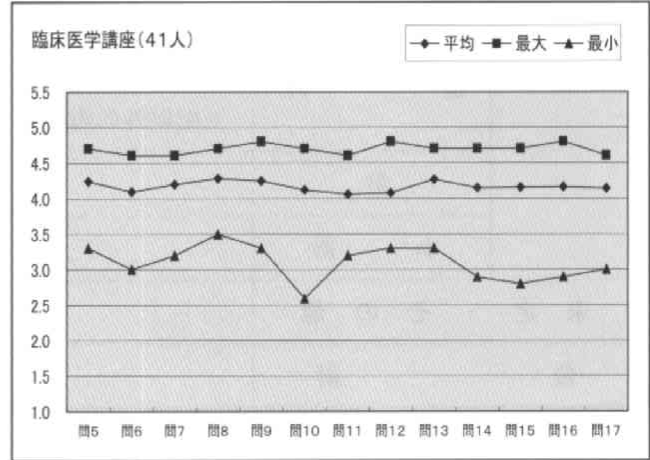
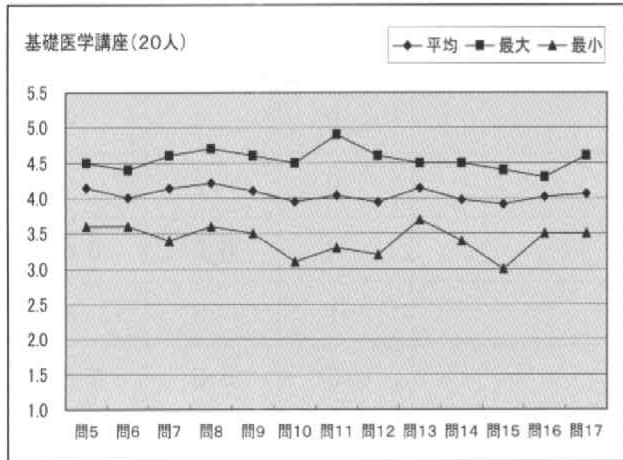
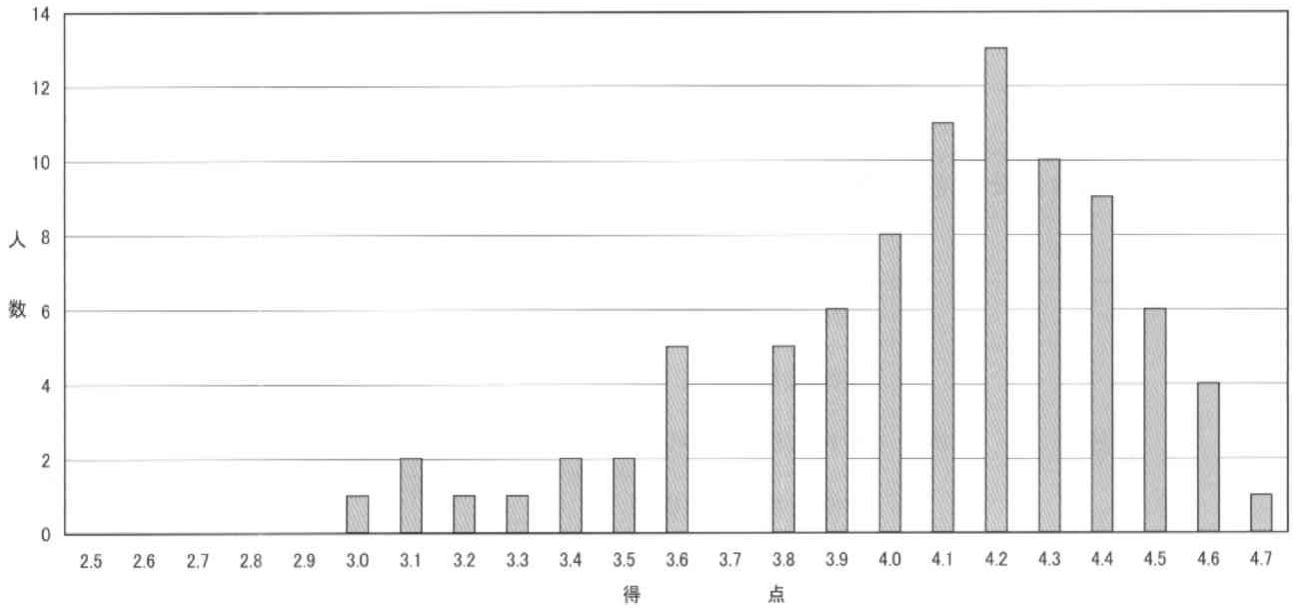
道 外：東海大学医学部附属病院、北里大学病院、島根大学附属病院、聖マリアンナ医科大学病院、埼玉医科大学総合医療センター、けいゆう病院、岩手県立胆沢病院、横浜旭中央総合病院、茅ヶ崎市役所

平成19年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得										点												
	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7
	0	0	0	0	0	1	2	1	1	2	2	5	0	5	6	8	11	13	10	9	6	4	1

(合計87名 平均値4.1)

問5～17までの各平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
講義計画	問5 各回の講義はよく準備がなされていましたか。 問6 履修要項は授業全体のポイントを理解する上で適切でしたか。
教育意欲・態度	問7 教育に対する情熱・熱意が感じられましたか。 問8 学生に接する態度は授業担当者として適切でしたか。
講義技術・内容	問9 明瞭で聞きとりやすい話し方でしたか。 問10 教材（プリント・スライド・板書など）は適切でしたか。 問11 講義において重要ポイントを強調してくれましたか。 問12 学生の反応を確かめながら講義していましたか。 問13 豊富な知識があり、かつ説明が論理的でしたか。 問14 授業の難易度は適切でしたか。 問15 各回の講義内容は量的に適切でしたか。 問16 今後の学習意欲を増す内容でしたか。
総合評価	問17 この授業は全体として満足できるものでしたか。 ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い） ③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない） ① 全くそう思わない（良くない）

1

非常勤講師 黒川伸一

科目名：法学（医学科・看護学科第1学年後期／選択）

日時：平成20年1月30日（水）2講目

履修者数：17 配布数：14 回収数：14 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.4	4.7	4.7	4.7	4.7	4.6	4.2	4.7	4.8	4.8	4.7	4.9

*評価に対するコメント

非常勤講師 黒川伸一

医学系の大学で法学の講義が高い評価を得たことに、大いに驚くと同時に、率直にうれしく思っています。マスコミなどの報道によれば、近年、医療現場でも、解決のために法律知識を必要とする問題が多数発生しているといえます。このような社会的背景が法学に対するニーズを生み、講義に対する高評価につながったと考えています。医学・看護学、法学、両者ともに実践の学としての側面が大きいという点も、受講生が比較的講義に入っていくやすく、かつ理解の手助けになったのかもしれませんが。もとより法学の知識を15回の講義で伝えることは難しく、できるだけ医療に関する法に限定して講義していますが、今後も抽象的な論議に終始することなく、社会で役立つ実践的な講義内容で受講者のニーズに応じて行きたいと思えます。

2

英 語 内 藤 永

科 目 名 : 医学英語 I A (医学科第 1 学年通年 / 必修)

日 時 : 平成 20 年 2 月 1 日 (金) 5 講目

履修者数 : 94 配布数 : 77 回収数 : 71 回収率 : 92.2%

* 評価結果 (平均)

問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12	問 13	問 14	問 15	問 16	問 17
4.6	4.5	4.8	4.8	4.8	4.7	4.6	4.7	4.8	4.4	4.4	4.6	4.7

* 評価に対するコメント

英 語 内 藤 永

医学英語 I A は、「NY Times 健康欄の記事を辞書なしで 30 分以内に読んで、その内容を日本語で要約する」という達成目標を設定しています。情報の収集・整理・伝達能力の育成を念頭に置き、長年、同じ目標を設定していますが、学生の気質も随分と変わってきました。その変化に対応するために、授業スタイルも learner-centered approach という手法を取り入れ、学習者である学生自身の意見を随分と参考にしてきました。学生のやる気がこの授業の質を高めています。みなさんがこの授業を積極的に活躍して、実力向上に結びつけてくれることを願っています。

3

総合診療部 奥村利勝

科 目 名 : EBM・CPC コース (医学科第 3・4 学年後期 / 選択必修)

日 時 : 平成 20 年 1 月 17 日 (木) 1 講目

履修者数 : 5 配布数 : 5 回収数 : 5 回収率 : 100.0%

* 評価結果 (平均)

問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12	問 13	問 14	問 15	問 16	問 17
4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.6	4.8	4.6	4.6	4.6	4.8	4.6

* 評価に対するコメント

総合診療部 奥村利勝

選択必修のため、今回は 5 人のみの参加でしたが、アンケートは全員 100% の回収率で、少人数ながら全員の意見を反映し、好評が得られたことを光栄に思います。希望者の人数に応じて講義 / 実習の進め方を調整しますが、少人数ほど内容が濃くなるのがこの評価の一因と考えます。内容は、これまで何年も日常の臨床や研究の教育・指導を行って来た事の延長を講義室で行っただけですが、PC を使って実際に evidence を収集する、自分の考えのプレゼンテーションするなどのコツに重点をおき、臨床実習 / 研修につながるように工夫しました。学生諸君の積極的な参加があって初めて成立する講義 / 実習であり、参加した学生諸君に感謝します。

以下、上位20%内の教員は次のとおりです。（*五十音順）

所属名	教員名	科目名	日時	学年	履修者数	配付数	回収数	回収率(%)
内科学講座 (病態代謝内科学分野)	伊藤博史	糖尿病・内分泌up- dateコース	平成20年2月1日(金)	医3・ 医4	62	52	9	17.3
非常勤講師	江口尚文	経済学	平成20年1月23日(水)	選択	28	21	21	100.0
泌尿器科学講座	奥山光彦	臓器別系別講義Ⅱ	平成19年10月15日(月)	医3	94	71	53	74.6
泌尿器科学講座	柿崎秀宏	臓器別系別講義Ⅱ	平成19年10月12日(金)	医3	94	84	44	52.4
内科学講座 (循環・呼吸・神経病態内科学分野)	川辺淳一	基礎医学Ⅱ	平成19年10月19日(金)	医2	103	93	64	68.8
病理学講座(免疫病理分野)	小林博也	生命科学Ⅶ	平成19年12月10日(月)	医1	94	54	40	74.1
泌尿器科学講座	佐賀祐司	基礎医学Ⅰ	平成19年10月15日(月)	医2	102	88	58	65.9
生理学講座(神経機能分野)	高草木 薫	基礎医学Ⅰ	平成19年12月12日(水)	医2	102	56	51	91.1
皮膚科学講座	高橋英俊	臓器別系別講義Ⅵ	平成19年11月30日(金)	医3	94	80	35	43.8
内科学講座(循環・呼吸・ 神経病態内科学分野)	長谷部直幸	基礎医学Ⅰ	平成19年11月28日(水)	医2	102	65	57	87.7
内科学講座 (病態代謝内科学分野)	羽田勝計	臓器別系別講義Ⅱ	平成19年10月2日(火)	医3	94	90	55	61.1
耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座	林達哉	臓器別系別講義Ⅵ	平成19年12月19日(水)	医3	94	75	38	50.7
耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座	原洵保明	臓器別系別講義Ⅵ	平成19年11月29日(木)	医3	94	89	55	61.8
非常勤講師	松田剛	心理学Ⅱ	平成19年11月26日(月)	看2	68	62	61	98.4
歯科口腔外科学講座	松田光悦	臓器別系別講義Ⅵ	平成19年12月6日(木)	医3	94	72	32	44.4

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物(レポートなど)の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う(非常に良い)
④ やや思う(良い)
③ どちらとも言えない(普通)
② あまりそう思わない(あまり良くない)
① 全くそう思わない(良くない)

科目名：生命科学Ⅳ（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：92 配布数：90 回収数：83 回収率：92.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.0	3.8	3.0	3.9	4.1	3.8	4.0	3.4	3.3	3.5	3.5	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅳコーディネーター 中村正雄

昨年に比べて全般的に評価が改善されている。しかし自由記載で内容が難しいとの意見が一昨年からは毎回複数寄せられるようになった。また、生命科学Ⅳのねらいは生命科学の物質的基礎を学ぶことで、その習得には基本である生体分子を形作る化学結合論、生体分子の機能を発現するための立体構造の理解が必須であるが、それらの理解が不十分な答案が後期試験で少なからず見られた。これらは学生諸君が、予習や授業の理解への努力を尋ねた問1(3.0)、問2(3.0)にそれぞれ低い評価を与えていることと関連していると思える。

講義の最初から理解できない内容を後に残さず随時資料で確認し、また担当教員に是非質問して下さい。勿論講義内容のつながりを工夫する、理解し易い講義への努力も私達に投げ掛けられた課題であると思えます。

科目名：生命科学Ⅴ（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：92 配布数：92 回収数：90 回収率：97.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.8	4.1	4.0	3.0	4.0	4.3	4.2	4.3	4.3	4.4	4.2	4.3	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.4												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅴコーディネーター 高橋雅治

生命科学Ⅴは、医療に必要な基礎心理学、臨床心理学、発達心理学を学ぶための講義である。

「科目構成」の4項目は、4.0から4.3であった。これは、講義の構成を毎年改善してきた成果であると考えられる。また、「科目内容」の4項目についても、4.2から4.3という高い評価が得られた。これは、講義内容の改訂や講義資料のマルチメディア化を推進してきたためであると思われる。

さらに、総合評価は4.4という高い結果となった。これは、医学に必要な心理学の基礎知識をコンパクトにまとめる、という講義企画全体が評価されたものと思われる。だが、学生自身の学習行動についての評価は低かった。従って、今後は予習・復習等についてより一層の指導が必要であると思われる。

科目名：生命科学Ⅵ（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：92 配布数：92 回収数：79 回収率：85.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.0	4.0	3.0	3.8	3.6	3.7	3.9	3.8	3.8	3.9	4.1	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅵコーディネーター 林 要喜知

生命科学Ⅵの評価平均点数（問5～14）は3.83であり、前年度より0.12低下した。しかし、「講義に興味を持てた」という学生が多いことに加え、総合評価も4.00であったことから、一応の目標は達成していると判断された。ただ、学生からの具体的な指摘として、1）担当教員数が多すぎた、2）講義内容にあちこち重複があった、3）科目内容が多岐にわたり内容量も多く定期試験は大変であった、4）講義資料等は整理してほしかった、等があった。そこで、担当教員と議論し、1）講義内容の整理や統合、2）講義展開の順序の整合性、3）大きな単元ごとの試験（中間試験2回、定期試験1回）導入などの改善案を平成20年度のシラバスに取り入れた。今後も他の関連科目との整合をとりつつ統合科目の良さを発揮できるように、授業評価や学生の直接的な意見に耳を傾け、改善のための努力をしていきたいと考えている。

科目名：生命科学Ⅶ（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：96 配布数：93 回収数：74 回収率：79.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	3.7	3.9	3.3	4.1	4.0	3.8	4.0	3.6	3.5	3.8	3.8	3.4
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅶコーディネーター 渡部 剛

本科目の企画・展開方法に関しては、ほぼ確立されこの数年間変更点はないが、本科目の授業評価が年々少しずつ低下している傾向が気になる。コメント欄を見ると、ゆとり教育が原因であろうか、「講義の内容についていけず、自分で教科書を読んでも理解できないので、講義の内容を減らしてもっと易しく解説してほしい」という声が散見される。しかしながら、共用試験受験時、あるいは医師国家試験受験時に要求される組織学・解剖学の知識レベルは以前と変わらないので、これ以上この科目の内容を減らすことはできない。この期間に人体組織学を習得できなかった学生は、4年終了時の共用試験までに自学自習で理解を深めていくしかないが、何か組織学の領域で質問・疑問が生じた場合には、いつでも気軽に担当教官まで尋ねに来て欲しい。

科目名：社会医学基礎Ⅱ（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：92 配布数：91 回収数：83 回収率：91.2%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	4.0	3.5	2.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.6	3.4	3.6	3.6	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

*評価に対するコメント

社会医学基礎Ⅱコーディネーター 松岡悦子

社会医学基礎Ⅱは、非常勤の長谷川吉昌先生、健康科学の杉岡良彦先生と社会学の松岡悦子で分担して行っている。この科目では、医学・医療を広く社会・文化・歴史・価値観などのコンテキストに置いてみることができるようになることを目的としている。しかし、その作業は自分で考えるという作業であり、あらかじめある答えを教えてもらうことではない。

この科目を料理にたとえるなら、少なくともメインディッシュではなく、しかも食べにくい料理で味もいまいちということなのだろう。できれば食べずに残したいけれど、全部食べないといけなくてしかたなく食べているということだろう。今後、私の方では、もっと食べやすい形にして提供しなければいけないのだろう。とは言っても、どの曜日の料理もいまいちなわけではなく、杉岡先生の料理はとても評判がいいことを付け加えておきたい。

科目名：基礎医学Ⅰ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：102 配布数：96 回収数：94 回収率：97.9%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.4	3.8	3.9	3.4	4.1	4.0	3.8	4.1	3.7	3.7	3.8	4.0	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

*評価に対するコメント

基礎医学Ⅰコーディネーター 高井章

- ・講義の進め方に関する設問である問5－問14については、平均ポイントが3.9で、昨年（4.0）とはほぼ同じ水準に達し、全体として、本実習科目が昨年度と同様、学生にかなりよく評価されたものと考えられる。
- ・ただ、問12「科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか」が、昨年度4.5という高ポイントを得たのに対し、今年度4.0と相対的に低くなったのが目につく程度である。
- ・また、問7「各履修主題に割当てられた時間のバランスは適切でしたか」が3.7とやや低いポイントになったことにも注意すべきであろう。「自由記載欄」に書かれた意見にも分野ごとのコマ数配分に関する不満の記載があった。来年度の本科目編成上の参考にしたい。
- ・「自由記載欄」には他に、一部学習内容の難解さと分量の多さ、試験の回数の多さと難しさについての不平の記述がめだつた。いかにして豊富な内容を要領よく教えるか、という点になお一層の工夫が求められているようである。

科目名：基礎医学Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：103 配布数：102 回収数：82 回収率：80.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	3.8	3.9	3.3	3.8	4.0	3.9	4.0	3.8	3.9	3.9	3.8	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

＊評価に対するコメント

基礎医学Ⅱコーディネーター 若宮伸隆

薬理学、微生物学、寄生虫学で構成されている基礎医学Ⅱの今回の評価点は、過去4回の評価点とほぼ同等でしたが、自由記載欄に期末試験の量などに関する意見が複数ありました。これについて、寄生虫学講座からコメントが寄せられましたので、以下に引用させて戴きます。

「試験の量が多いとのことですが、感染症の分野では病原体の種類が多く、個々の事例が蓄積しますので、やむを得ないと考えています。また、試験を受けることも勉強の一つと考えています。試験の分量が多いこと理由は、たくさん問題に触れ、自分にとって何が不明であるのか自覚していただきたいからです。試験は全く勉強していない者をチェックすることが目的で、ある程度の水準に達していれば、次年度の基礎医学実習Ⅳで実物を見ながら復習することになるため、寄生虫学領域では再試験をしませんでした。なお、この「授業評価」の実施方法ですが、試験時間中に行なうのは不適切です。実施するならば、講義終了時もしくは電子メールなどで随時回答出来るようにすべきだと思います。」

このコメントの最後に述べられている「授業評価の試験時間中の実施」につきましては、本科目コーディネーターとしてもかねてから反対しており、早急に改善して戴きたいと思っております。この他に、自由記載欄には「薬理学、微生物学、寄生虫学の3領域を1科目としてまとめること」に関する意見が毎年見られますが、これについては今後の課題にしたいと思います。

科目名：基礎医学特論（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：102 配布数：88 回収数：80 回収率：90.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.7	3.6	3.5	2.9	3.7	3.9	3.8	4.0	3.6	3.5	3.6	3.7	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

＊評価に対するコメント

基礎医学特論コーディネーター 柏柳 誠

総合評価は、平成18年度とかわらず3.7であった。今年の個別意見を集約すると、興味深い（5件）、難解（5件）、必要性に疑問（3件）、出席確認に関する意見（3件）となった。昨年、一昨年と興味深いと難解という評価が拮抗していたが、今年は興味深いという意見が多い傾向がみられた。難易度に関する問9の評価は平成16年度3.3、平成17年度3.2、平成18年度3.4、平成19年度3.6とあまり変わらなかった。一方、基礎医学特論の目標である学生の科学的興味を喚起することを評価する問12の値は、平成16年度3.5、平成17年度3.6、平成18年度3.9、平成19年度3.7と平年並みであった。レポートの提出数は昨年度の132から190と大幅に増加した。これは、講師の先生が興味深い話題を提供したために、レポート作成意欲を喚起したことを示唆するものと思われる。

科目名：社会医学基礎Ⅳ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：100 配布数：99 回収数：81 回収率：81.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	4.0	3.4	2.8	3.3	3.7	3.5	3.6	3.6	3.4	3.4	3.2	3.3
問14	問15	問16	問17	問18								
3.2												

＊評価に対するコメント

社会医学基礎Ⅳコーディネーター 松岡悦子

社会医学基礎Ⅳは、医師－患者関係をテーマに、哲学、倫理学、社会医学、社会学の視点からアプローチしています。担当するのは、長谷川吉昌（非常勤）、杉岡良彦（健康科学）、松岡悦子（社会学）です。3人で分担して1つの科目を教えているので、授業の中身を互いにすりあわせて、全体として統制のとれたものにするのが、今後の反省事項となるでしょう。

哲学・倫理学や社会学のように、答えのない問題を扱う科目は、考える力を要求されます（暗記や要領のよさでは乗り切れません）。ですので、学生の方達にお願いしたいのは、この授業ではモードを切り替えて、思考のパワーを楽しんでほしいということです。

科目名：臓器別・系別講義Ⅲ（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：94 配布数：86 回収数：78 回収率：90.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.2	4.1	3.6	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅲコーディネーター 高後裕

臓器別・系別講義Ⅲは、膠原病、感染症、血液病学を対象とした講義である。学生の総合評価は4.1とほぼ満足してもらえたと考えている。各科・各分野でも重複項目を整理しており、科目構成に関しては比較的高く評価されているようである。例年、授業内容に関して時間数が足りない、との学生からの自由意見が多いが、講義の時間を増やすことが必ずしも多くの知識に結びつくわけではない。授業の予習ならびに復習に関する自己評価が、3.3および3.6とあまり高くなかった。従来型の一方的な知識の押しつけではなく、授業の予習・復習も行いその都度疑問点を明らかにし、さらに4学年のチュートリアルや、5学年以降のクリニックワークシップも通じて自ら積極的に学習することで、不十分な知識を補い、問題点を解決していく姿勢・習慣を身につけてもらいたい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅴ（医学科第3学年前後期／必修）
履修者数：94 配布数：90 回収数：40 回収率：44.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	4.0	4.0	2.9	3.9	3.6	4.0	4.0	3.7	3.5	3.8	3.8	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅴコーディネーター 千葉 茂

本講は、脳、脊髄、および末梢神経系の解剖と機能を念頭に置きながら、精神神経学にかかわる広範な医学・医療を学ぶことを目的とする。講義は、内科、小児科、脳神経外科、放射線医学、精神医学の教員で行われた。学生の総合的評価は3.7であり、昨年よりも0.3ポイント低下した。しかし、学生から寄せられたコメントは昨年よりも多く、しかも意外に良い。たとえば、「プリントが分かりやすい」、「興味深かった」、「臓器別・系別のなかで一番面白かった」などである。しかし、講義のやり方や内容の吟味については、まだまだ課題があるはずである。本年4月に、担当教員会議を開いて意見の交換や重複する内容を講義しないように変更を行った。その効果に期待したい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅵ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：94 配布数：84 回収数：61 回収率：72.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.3	4.0	3.5	4.1	4.1	4.1	4.2	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅵコーディネーター 原 淵 保 明

臓器別・系別講義Ⅵは、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科の4科が合計105コマを担当した。この4科が担当するのは感覚器系という人間の生活の質にかかわる分野を集中的に学ぶ場を提供するためである。しかし、臓器別という観点からは専門化、細分化が進み、学生にとっては網羅的に知識を詰め込まれているという印象が拭えないためか、「試験が難しかった」という意見も聞かれた。注目に値するのは、各講義のスライドをまとめた「履修テキスト」を予め学生に配布する耳鼻咽喉科の取り組みに、学生から高い評価が得られた点である。学習が容易でない分野こそ、学生の学習意欲を高める工夫が必要である点を再認識させられた。

問12に対する回答は、例年以上に講義内容が今後の学習意欲を増すものであったことを示している。各講座、各担当教官の教育に対する熱意の賜物であり、コーディネーターとして心から感謝したい。

科目名：臨床医学概論Ⅱ（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：94 配布数：93 回収数：90 回収率：96.8%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.3	4.0	3.3	4.2	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.2	4.0	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2												

*評価に対するコメント

臨床医学概論Ⅱコーディネーター 藤尾 均

医学科第3学年の必修科目（15コマ1単位）である。平成19年度は法医学講座5コマ、健康科学講座6コマ、歴史・哲学4コマ、総勢10名で実施した。医の倫理を踏まえコア・カリ「A. 基本事項」の発展的内容と「F. 医学・医療と社会」の基礎的内容を扱う統合科目であるが、統合科目とは名ばかりで、その点では毎年、学生の不評を買っている。

しかし、例年通り評価は概して高かった。講義が素晴らしかったからというよりは（むしろ素晴らしい講義もあったであろうが）、期末試験が国試やCBTを強く意識した無理・無駄・斑（むら）のない択一問題だったからであろう。

臨床医学概論Ⅰ～Ⅳ全体で60コマは多すぎるという批判も根強い。これを踏まえ21年度新入生から実施されるカリキュラムでは、当該枠は半減されるとのことである。「量より質」が重視されることは教員にとっても学生にとっても喜ばしいことであろう。

科目名：症候別・課題別講義（医学科第4学年通年／必修）

履修者数：94 配布数：92 回収数：76 回収率：82.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.1	3.8	3.2	3.8	3.4	3.8	3.9	3.9	4.0	3.9	4.1	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

*評価に対するコメント

症候別・課題別講義コーディネーター 笹嶋唯博

症候診断学は、古くから多くの教科書が上梓されているように日常診断では極めて重要な領域である。そこで今回の講義は様々な症候を学際的、網羅的に編成された企画で、これほど集中的かつ専門的に講義を受けられる機会はないであろう。症候によっては診断が多岐におよぶもの、診断の優先順位が特定されるもの、あるいは重症度の高い疾患で治療が優先される項目もある。症候診断では、裾野が広いことから多くの講師により編成される必要があり、編成は容易ではない。また、大部分の講師は症候学に関する講義ノートは持ちあわせていないので、このために特別に準備されたものと思われる。講義内容の部分的な重複は避けられず、学生からの指摘があった点であるが、その調整は今後の課題である。

科目名：選択必修コースⅠ・Ⅳ「ニューロサイエンスコース」(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：92 配布数：80 回収数：52 回収率：65.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.7	4.5	3.7	3.2	4.1	4.1	4.1	4.3	4.0	4.0	4.0	4.0	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

*評価に対するコメント

ニューロサイエンスコースコーディネーター 吉田 成孝

選択必修の授業も4年目となり教員と学生双方共に定着した感がある。神経系はその複雑な機能ゆえに、現在でも科学者のみならず多くの人の興味をかきたてる分野である。その反面、生理的にも病態的にも包括的な理解はなかなか難しい。本コースは通常の講義だけでは理解が難しいが、未知なる世界をできるだけわかりやすく紹介したいとの思いから開講している。学生からの評価もほぼ例年通りの結果となったが、教員としては受講生の受講態度に不満が残る。今後は、学生の授業満足度だけでなく、知的満足度も上げる様な工夫をしていきたい。

科目名：選択必修コースⅠ・Ⅳ「生体構造機能蛋白・病態解析コース」(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：36 配布数：25 回収数：23 回収率：92.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.8	4.3	3.5	3.0	3.7	3.7	3.7	3.8	3.5	3.4	3.6	3.7	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

*評価に対するコメント

生体構造機能蛋白・病態解析コースコーディネーター 伊藤 喜久

生体構造蛋白、病態解析については、本年度も応分の評価をいただいたと思います。通常の医学科の授業は病態・疾患、臓器・組織、あるいは診断・治療などから輪切りしているのに対して、蛋白質をキーワードに基礎から臨床応用まで総合的・横断的に学び、ものの見方、考え方を学ぶことを主眼としています。各専門家のご参加、ご指導を得て独自性、独創性のある講義を提供しました。医学研究者、医療従事者としての足固めができるものと思います。ただ、授業を担当、見学してみて、内容的に専門的になりすぎ難解で、関心が必ずしも得られていないことも事実で、好評であった授業の内容を検討し、諸君らがより興味を持ってのぞめる講義を実施したいと思います。

科目名：選択必修コースⅠ・Ⅳ「臨床薬理学コース」(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：40 配布数：40 回収数：39 回収率：97.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	3.8	3.9	3.3	4.0	3.8	3.9	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

＊評価に対するコメント

臨床薬理学コースコーディネーター 牛首文隆

臨床薬理学コースでは、基礎薬理学で学んだ薬物が、実際の臨床の場でどのように用いられるかを学ぶことを目的としている。このため、臨床・基礎各科の先生方に御自身の専門分野の薬物を中心とした講義を行って頂いた。講義内容は、薬物の処方、様々な疾患の薬物療法とのお問題点、法医学における薬物、医療経済等多彩である。一方、本コースは3、4年生合同の講義であり、そのカリキュラム進行度の違いから、当初は学年間で講義理解度に差がでる危惧を抱いた。しかし、高度な問題群からなる試験の結果は、両学年ともほぼ同じ高い正答率であり、学生諸君の努力と講義の質の高さが窺われた。本コースでは、今後も各科の先生方に御協力頂き、臨床の場で即戦力となるような知識の学生諸君への提供を目指したい。

科目名：選択必修コースⅡ・Ⅴ「臨床腫瘍学コース」(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：53 配布数：52 回収数：47 回収率：90.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.4	3.9	3.5	4.1	4.3	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2												

＊評価に対するコメント

臨床腫瘍学コースコーディネーター 高後 裕

臨床腫瘍学コースは、癌に関する基礎的・臨床的話題から疫学、臨床試験、緩和医療に至るまで幅広い領域を診療科の枠を超えて学習するコースである。例年同様50名以上の学生が選択したが、出席に関する自己評価が4.4と大変高く、総合評価も4.2と好評であった。それぞれの専門家による得意分野の講義で、学生も興味深く出席し、その内容にも満足してもらえたものと考えられる。本コースでは、講義の内容が広汎かつ専門的であることから講義を担当いただいた先生により作成された問題ならびにその解答・解説を、あらかじめ学生に公開し、その中から試験するという方法をとっている。試験に関する学生の評価は高く大変好評であった。がん対策基本法が制定され、がんに関する基盤的な幅広い知識が必要とされており、今後益々内容が充実されていくものと期待している。

科目名：選択必修コースⅡ・Ⅴ「メンタルヘルスコース」(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：30 配布数：29 回収数：27 回収率：93.1%

*評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.0	3.8	3.3	3.8	3.9	3.7	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

*評価に対するコメント

メンタルヘルスコースコーディネーター 千葉 茂

「21世紀は脳と心の世紀」といわれている。メンタルヘルスコースでは、心理学、医学、医療現場、社会学などさまざまな観点から人間の精神現象を見つめるコースである。これらのテーマが、最終的には患者のための医学につながるように工夫している。今回のシリーズでは、緩和ケアの分野などの最新の臨床的テーマを含め、学生たちが興味をもって講義に臨んでくれたと考えている。講義内容は、全体として4.0と評価が得られた。学生の中には、精神現象が現れる根本原理に重点を置いてほしい、あるいは、治療に重点を置いてほしいなどの希望もあったため、どのようなバランスで講義内容を展開するかについては、教員側の努力がさらに求められよう。成績評価は、多岐選択の試験を実施した。その結果、受講者の77%が優、23%が良、という高い成績が得られ、教えた側として大いに満足のいくものであった。

科目名：選択必修コースⅡ・Ⅴ「EBM・CPCコース」(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：5 配布数：5 回収数：4 回収率：80.0%

*評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.0	5.0	4.5	4.2	4.2	4.5	4.2	4.2	4.0	4.0	4.0	4.7	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
4.5												

*評価に対するコメント

EBM・CPCコースコーディネーター 奥村 利勝

選択必修コース「EBM・CPCコース」は開講し3回目を迎えた。30コマの中前半16コマをEBMコース、後半14コマをCPCコースで構成し、即臨床実習・研修で役立つ生きた知識・考え方を習得出来るよう心がけた。選択者は、3年生2名で4年生3名の合計5名であった。選択者の人数が少数ではあるが、その分個々に行き届いた指導が可能であった。総合評価は4.5で昨年4.7一昨年4.3と一定した評価が得られている。総合評価とともに、私達が最も重視する問12(今後の学習意欲を増すか)の評価も4.7と満足できるものであり内容や進め方は適切と判断している。受講した学生からのコメントでは一部内容が濃すぎるとの意見があったが、全体の満足度を考慮すると、次年度も同様な内容でコースを構築する。

科目名：選択必修コースⅢ・Ⅵ「臨床遺伝学コース」(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：17 配布数：16 回収数：16 回収率：100.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.7	4.6	4.3	3.9	4.3	4.2	4.0	4.3	4.5	4.1	4.5	4.8	4.6
問14	問15	問16	問17	問18								
4.6												

*評価に対するコメント

臨床遺伝学コースコーディネーター 藤田 芳 男

臨床遺伝学は、疾患別で講義される遺伝にかかわる情報の統合講義を目的に設立されております。講義部分の特論とともに、最終的に患者さんに伝える場合の問題点の討議する「ロールプレイ」や論理問題の「ディベート」、家系図の書き方や遺伝情報の調べ方などの演習を組み合わせた2本立てのメニューで開講しております。昨年6名まで落ち込んだ受講者も今年は、17名と適度な人数に回復することができ講師陣もホッとしております。受講後の学生評価（総合評価）でも毎年4.5を下ることのない評価を得ており講師陣も授業内容に自信をもっております。来年度は、受講生からの要望の多い、「演習部分の配分増加」を予定しています。選択必修の枠組みの中で、少人数ゼミナールとしての形態を活かして人類遺伝学の臨床応用分野の進歩をレビューしていきたいと考えています。

科目名：選択必修コースⅢ・Ⅵ「感覚器医学の最先端コース」(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：62 配布数：51 回収数：27 回収率：52.9%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.5	4.4	3.6	2.9	3.7	3.9	3.8	4.0	3.9	3.8	3.7	3.7	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

*評価に対するコメント

感覚器医学の最先端コースコーディネーター 石 子 智 士

「感覚器医学の最先端コース」では、我々の重要な「情報獲得器官」である感覚器医学の基礎・臨床そして最先端の全てを、眼科学、生理学、解剖学、耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学、麻酔蘇生科学の15名の講師がそれぞれの立場から講義された。昨年と比較すると、科目構成・科目内容・総合評価の10の問いに対して、「内容の過度の重複はさけられていたか」「今後の学習意欲を増すものか」「難易度は適切か」の3つの問いでわずかではあるが評価が上がっている。これは、昨年の反省点をふまえた講義の結果が反映されてきているものと思われる。レポートに関しては複数の学生から意見が出され、これに関する問いの評価も若干下がっており、今後の課題としたい。さらに本年も、カリキュラム全体の改訂を望む意見があった。今後も、系統別講義との違いを明らかにした講義をすすめていきたい。

科目名：選択必修コースⅢ・Ⅵ「糖尿病・内分泌Up-Dateコース」(医学科第3・4学年後期/選択必修)
履修者数：62 配布数：60 回収数：38 回収率：63.3%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.4	4.0	3.3	4.1	4.0	4.1	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1												

***評価に対するコメント**

糖尿病・内分泌Up-Dateコースコーディネーター **羽田 勝 計**

当コースの目的は、糖尿病・内分泌疾患に関連した最新の医学知識を基礎分野から臨床分野にわたり幅広く専門的に学習することであり、従来の系統別の講義では紹介しきれない最先端の医学知識を得ることができるようプログラムされている。学生からの評価は、科目構成および内容共に4.0以上の評価であり、一定の目的は達成できたものとする。また、今回からの試みとして、最も理解を深めた課題に関するレポート提出を課したが、全員よくまとまった内容であった。ただし、本コースの意義付けについて十分な理解に至らなかったとのコメントもあり、3～4学年というコースを選択する学年の学習の進行状況を鑑みつつ今後のコース内容の改善策を考える上で参考にしたい。

科目名：形態機能学 (看護学科第1学年通年/必修)

履修者数：60 配布数：60 回収数：36 回収率：60.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.3	4.3	3.6	3.5	3.9	3.6	3.8	3.5	3.4	3.5	3.6	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

***評価に対するコメント**

形態機能学コーディネーター **岩元 純**

総合評価が3.8 (5点：17%、4点が50%、3点が33%) でした。この科目が、一般的には生理学と解剖学と呼ばれている学問で、小難しい内容を覚えたり、日常的ではない事柄を理解したりしなければならない科目であるという点を考慮すれば、この評価はかなり好意的につけてもらったといってもいいでしょう。ただし、授業の難易度と理解しやすさでは、数名の人が厳しい点を付けていました。万人に分かる講義を目指してはいても、クラスの1割程度の人にはなかなか理解しづらいのしょう。昔話をして恐縮ですが、授業後に質問する学生が以前はとて多かったのに、年々歳々、そのような学生さんが少なくなってきています。学生諸君にはできるだけ質問を多くしてもらいたいと切に希望します。

科目名：人間科学Ⅱ（看護学科第1学編入3年通年／必修）

履修者数：68 配布数：68 回収数：45 回収率：66.2%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	3.9	3.5	3.1	3.3	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.5	3.2	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.4												

*評価に対するコメント

人間科学Ⅱコーディネーター 藤尾 均

看護学科第1学年の一般教育人文社会系の通年必修科目（45コマ3単位）である。平成19年度は松岡准教授（社会学）17コマ、田村非常勤講師（哲学・倫理学）7コマ、吉田学長1コマ、筆者（歴史学・哲学）17コマ、それに障害者問題を扱った映画の鑑賞3コマで実施した。学長の講義と映画鑑賞は評判が良かったが、全体としての評価は過去最低であった。明らかに、内容が担当者ごとに余りにもバラバラで、しかも担当者の個性が強くにじみ出た講義が少なくなかったためである。例年、3単位は多すぎるとの声が少なからず寄せられていたが、19年度も同様であった。幸い、この科目は20年度をもって打ち切られ、21年度からは、新しい担当者による「看護社会論」15コマ1単位と、筆者による「医療史・医療哲学」15コマ1単位に全面的に衣替えすることになった。これまでの反省を生かして新鮮な気持ちで取り組みたい。

科目名：疾病論（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：62 配布数：60 回収数：59 回収率：98.3%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.2	3.6	3.5	2.8	3.2	3.3	3.2	3.6	3.3	3.3	3.3	3.5	3.2
問14	問15	問16	問17	問18								
3.4												

*評価に対するコメント

疾病論コーディネーター 岩元 純

疾病論は、いつも学生さん達に謝らなければならないことが多い科目です。例年、その講義の難易度の高さが学生側からの苦情の中心となっています。今年も、やはりそのような内容の授業評価を得てしまいました。看護の2年生で疾患のことを学ぶのは、早すぎるのかも知れないと個人的には心配していますが、カリキュラムはなかなか融通の効かないものなので、現状で何か打開策を考える必要があります。さて、今年の評価は、総合が3.4とまあまあでしたので、少しだけほっとしました。内訳を見ると、難易度が3.3、理解しやすさ3.3、意欲への効果が3.5程度でしたので、平均値を見る限りは可もなく不可もなしといったところでしょうか。理解しづらいと答えた人が11人（18%）もいて、分野によっては改善する必要がありそうだという印象を受けました。一部の講義で、ハンドアウトが渡されてなかったりしたことが、評価を少し下げた原因となっていたようです。しかし、他大学と比してもこれほどの水準の高い講義を行っている大学は、そんなに多くは無いと胸を張って言えますので、学生諸君は果敢にこの講義に挑んで欲しいと期待しています。

科目名：代謝栄養学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配布数：59 回収数：59 回収率：100%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.5	4.0	3.7	3.1	3.3	3.5	2.8	3.4	3.4	3.2	3.2	3.3	3.4
問14	問15	問16	問17	問18								
3.4												

*評価に対するコメント

代謝栄養学コーディネーター 木村昭治

評価の受け止め方はいつも難しい。例えば同じ講義であっても、ほとんど役に立たないつまらない講義であったという学生がいる一方で、非常に興味のある内容で面白かったという評価をする学生もいる。どちらも正しい評価なのであろうがおそらくその学生の科目に対する準備状況やバックグラウンドの知識の程度によるところが大きいと思われる。医学科と比べて看護の教科書のページ数の少なさは必ずしも内容の容易さを意味しない。原理はどの科目でも変わらず従ってその難易度は同じはずである。これを効率よくより少ない時間でこなすためには予習が必要でそれで分からない部分を質問することが重要である。教官はこれに対しては十分応える必要があり折にふれこの方向の学習を学生に促すことが重要であると考えている。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：生命科学実習Ⅱ（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：91 配布数：90 回収数：90 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.7	4.3	3.9	4.5	3.9	4.0	3.7	3.8	4.2	3.6	3.6	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.2	3.5	3.7	3.8	3.5								

***評価に対するコメント**

生命科学実習Ⅱコーディネーター **本間 龍也**

教室の教員移動等がありましたが、全体として、前年同様の評価を頂き安堵しているところです。特に、実習スケジュール、配布資料（テキスト）の面で評価されたことは、これまでの改善努力が報われたものと考えます。ただ、ここには示されておりませんが、それ以外の点で、A組に比べB組で低い評価を得た項目があったのが気になりました。この科目は、前半（10月～11月）にA組、後半（11月～1月）にB組を指導しています。同内容の実習テーマ、同程度のレポート提出を義務づけているにもかかわらず最大で0.5ポイントの差がついた項目がありました。教員側は、前半、後半同じように指導しているつもりですが、指導されている側にはそうは映らなかったということを示唆していると思われまます。今後は、今まで以上に、前半と後半の指導方法に気を配りながら実習の改善に努めていこうと考えます。

科目名：生命科学実習Ⅲ（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：91 配布数：89 回収数：87 回収率：97.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.8	4.6	4.1	4.6	4.0	4.2	3.8	4.1	4.1	4.0	3.9	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8	4.1	4.2	4.2	4.2								

***評価に対するコメント**

生命科学実習Ⅲコーディネーター **高橋 龍尚**

18年度はA組とB組で項目ごとの評価が大きく違う点の特徴でしたが、今年度は両組による評価差はほぼなくなりました。昨年度の評価をうけて19年度に改善すべき内容は、演習課題を十分にできる人、またそれとは逆に演習課題を十分に理解できない人といった極端な学力差をどのように実習の中で克服し向上させて行くかでした。19年度は全般的に評価が高く、改善効果の表われと考えます。今後も引き続き、学力差に対応するため実習時間内のみならず、いつでも対応する体制を維持し、シラバスに準じた標準的な講義構成では対応できない部分を強化して行きたいと思ひます。

科目名：生命科学実習Ⅳ（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：92 配布数：92 回収数：85 回収率：92.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.9	4.7	4.2	4.1	4.4	3.7	4.1	4.0	4.3	4.2	3.8	3.5	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8	3.8	4.0	3.8	3.8								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅳコーディネーター 渡部 剛

前年度までの数年間で、この授業評価での学生の要望に応じてスケッチなどの提出課題量を劇的に減らしたにも関わらず、学生の子習量も提出レポートの質も年々低下する一方だったので、今年度から発想を転換して評価方法を一新した。具体的には、毎回のレポート提出を廃止し、代わりに実習各回の冒頭に予習の程度を評価するためのプレテストを行うようにした。この方法の是非については、何年間か実施してから分析・評価する予定であるが、実習中の学生からの質問の質はやや向上したような印象があり、一定の効果は得られたのではないかと考えている。

科目名：基礎医学実習Ⅰ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：101 配布数：99 回収数：90 回収率：90.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.1	4.6	4.4	4.6	4.6	4.2	4.5	4.4	4.5	4.5	4.3	4.2	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.4	4.4	4.5	4.4	4.5								

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅰコーディネーター 吉田 成 孝

今年度の2年生は新々カリキュラム5年目で基礎医学実習Ⅰも昨年の反省点をふまえてマイナーチェンジを行った。実習の内容の時間配分を再検討し、過度な負担がかからない様に変更した。学生の評価自体は昨年度とほぼ同様であるが、例年通り充実した実習ができたものと考えている。指導者数の不足を指摘する声もあり、また、もっと丁寧な指導を望む声も聞かれた。教員側にも反省すべき点はあるが、何よりも学生諸君の自主的な取組みが肝心である事をこれからも強調していきたい。全体の枠組みとしては固まったといえようが、映像機器の使用の充実を今後の第一の課題とし、学生自身の動機付けと実習全体の目標達成に向けて、さらに工夫していきたい。

科目名：人間科学実習（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配布数：59 回収数：57 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.9	4.7	3.8	4.5	3.7	3.9	3.7	3.7	4.1	3.8	3.9	3.1
問14	問15	問16	問17	問18								
3.4	4.0	4.1	4.0	3.7								

＊評価に対するコメント

人間科学実習コーディネーター 林 要喜知

今年度評価の平均点（問4～18）は3.82で、昨年とはほぼ同じ（3.78）であった。評価項目別では、「(1)レポート量や提出期限が適切であるか（問13=3.1）、(2)学習意欲を増す内容であったか（問14=3.4）」が低い評価であった。学生の具体的コメントでは、「(1)に対しては（試験前のこともあり）レポート量が多い、(2)は事前に資料が渡されていない。またレポート点検の流れがわかりにくい。」ことに対する不満があった。比較的高い評価を得たものは、「(5)おおむねスケジュール通りに実習がなされた（問5=4.5）」であった。このことから、実習全体の内容や計画には一応の評価があり、教育目的はほぼ達成されたと考えられる。今後は、資料の事前配布につとめ、レポートの分量や提出時期などを考慮したいと考えている。さらには、学生に添削によるレポート点検の意味を理解してもらえるように努力する必要があると考えている。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：61 配布数：61 回収数：58 回収率：95.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.2	4.8	4.7	4.5	4.5	4.1	3.8	3.7	4.3	4.4	3.8	4.1	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1	4.0	4.3	3.8	4.2								

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅰコーディネーター 升田 由美子

授業全体の満足度が4.2（昨年度3.8）であり、おおむねよい評価でした。しかしながら、今年度の授業評価で目立ったのは「指導教員による指導内容の違い」であり、問7・8の評価が3点台でした。自由記載にもこの点を指摘する内容が複数ありました。表現の違いによって指導内容が異なると受け止められている場合もあるかと思いますが、演習における指導内容を真摯に振り返っています。また、19年度の新しい取り組みとして、技術チェック回数を増やし、より効果的に技術習得が図れるようにしました。また、実習室アワーの回数も増やしました。実習室アワーは好評でしたので、次年度も継続します。この科目はほとんどの学生が1度も休まず、熱心に看護技術の習得に励んでいました。実践に即した看護技術をこれからも教授すべく、今まで以上に教員間の連携を図りたいと思います。教員によって指導内容が違ふと感じることがあったらすぐにお知らせください。

科目名：生体観察実習（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配布数：61 回収数：36 回収率：59.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.7	4.8	4.5	4.1	4.3	4.0	4.2	4.0	4.1	4.1	3.8	3.7	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0	3.8	4.0	3.9	4.1								

＊評価に対するコメント

生体観察実習コーディネーター 岩元 純

生体観察実習は、5項目の解剖・生理学の実習（演習）を行う科目で、学生の参加・学習意欲と、教員の熱意・創意工夫が必要な科目です。各先生方には、本年度もその深い学識と教育能力を発揮していただきましたし、学生さん達も、大多数の人たちは実習を楽しんでいたように見受けられました。その結果が、総合評価で4.1という合格点を頂戴したことに表れたのだと思います。特に、教員達の指導能力への評価4.2、学習欲をかきたてたかという質問には、4.0という点（実際は約4割が5点満点をくれていました）をいただきましたので、今後の励みになりました。次年度も、実習を興味深いものにしていきたいと思っています。ただし、この種の評価では、常に数名の人がかなり厳しい評価（1～2点）をつけていることも事実です。できるだけ、すべての学生諸君に教員側の熱意が伝わるように努力を続けていくつもりです。

科目名：実践看護技術学（看護学科第3学年通年／必修）

履修者数：70 配布数：70 回収数：70 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.2	4.7	4.6	4.3	4.2	4.0	4.1	4.1	4.3	4.2	3.5	3.9	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1	3.9	4.2	4.2	4.1								

＊評価に対するコメント

実践看護技術学コーディネーター 服部 ユカリ

学生の自己評価3項目の平均は4.5であり、例年通り自己評価は高い。

演習計画の5項目の平均は4.1で比較的高かった。

演習内容6項目の平均は4.0であり、この中で最も低かったのは、例年と同様、技術の習得に関する項目で3.5であった。この科目は6領域から成り立っており、時間数は領域により異なる。技術の習得にかけられる時間数の差があることも評価の低い理由かもしれないので今後検討する必要がある。卒業生の看護実践能力を向上させることが、看護系大学の教育の大きな課題であり、本学でも同様である。今後さらにこの点について改善を図る必要がある。

演習環境の3項目の平均は4.1であり昨年度と同様であった。

全体については4.1であり、昨年と同様の傾向で、この科目の評価が定まってきたことの現れと言えよう。

臨地看護学実習企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど、予習をしましたか。 問2 実習に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習計画	問3 実習目的・実習目標はガイダンスで明確に示されましたか。 問4 実習はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問5 学生数に対して指導教員数と実習指導者数は適切でしたか。 問6 指導教員と実習指導者の連携はとれていましたか。
実習内容	問7 実習の内容は、関連する講義科目と対応がとれていましたか。 問8 受け持ち患者の看護の難易度（コミュニケーションも含めて）は、適切でしたか。 問9 看護過程について、指導教員や実習指導者から適切な助言が得られましたか。 問10 看護技術を実践する機会が多く与えられましたか。 問11 カンファレンスで有意義な討議・討論が行われましたか。 問12 課された実習記録・レポートなどの量は適切でしたか。 問13 実習によって看護職者をめざす意欲が十分に高まりましたか。
実習環境	問14 実習場の設備・機材・用具・物品等は必要十分な質と量でしたか。 問15 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問16 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問17 この実習は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎看護学実習（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配布数：59 回収数：59 回収率：100.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.4	4.6	4.5	4.5	4.5	4.2	4.3	4.1	4.3	4.3	4.2	3.9	4.4
問14	問15	問16	問17	問18								
4.5	4.5	4.5	4.6									

*評価に対するコメント

基礎看護学実習コーディネーター 一條明美

今年度はこの実習について2つの新しい取り組みをしました。ひとつは実習時期を1月下旬から10月中旬に変更したことです。感染症などの影響で実習スケジュールの変更を余儀なくされた経験からの変更ですが、実習は予定通りに進み効果がありました。また、実習する病棟によって見学・体験できる看護技術の内容・回数にバラつきがあるため、体験表を用い学生個々の見学・体験の状況を共有しました。昨年度は3.5だった問10（看護技術を体験する機会が多く与えられましたか）が、今年度は4.3と0.8ポイント上昇し、効果が見られました。しかし、実習時期が早まったことで未習の看護技術を見学・体験することにもなります。この点について今後、臨時実習指導者と連携を深めよりよい実習になるよう取り組みたいと思います。

科目名：看護過程論実習（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：59 配布数：54 回収数：49 回収率：90.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.7	4.7	4.6	4.4	4.2	4.2	4.3	4.1	4.3	3.6	4.1	3.7	4.1
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2	4.3	4.2	4.2	4.2								

＊評価に対するコメント

看護過程論実習コーディネーター 升田由美子

実習全体に対する満足度は4.2であり、実習によって看護職者を目指す意欲が高まったかという問13も4.1と比較的よい評価でした。実習によいイメージをもつことは今後の学習動機づけになると期待しています。看護技術を体験する機会は昨年度に比して上昇し、実習目標の達成に効果的であったと考えます。記録物の量について、一部の学生から「教員により課される量・期限が異なる」という意見がありました。記録の内容・量はある程度統一されるように事前に打ち合わせを行っています。しかし、受け持ち患者の状態や特徴の違いまたは学生自身のレディネスの差によりまったく同じ記録量にすることは不可能です。多くの記録を書き、綿密な初期計画を立案した学生はより多くの学びを得たと考えます。大学で学ぶ姿勢を今一度考えていただきたいなと思います。担当教員によって実習内容・指導に差があったという指摘もありました。今まで以上に教員間で連絡を取り、実習が円滑に進むように努力したいと思います。

科目名：地域保健看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：61 配布数：61 回収数：61 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.8	4.8	4.7	4.6	3.8	4.1	4.4	4.1	4.0	3.8	4.2	3.7	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0	4.3	4.1	4.2									

＊評価に対するコメント

地域保健看護学実習Ⅰコーディネーター 北村久美子

実習の目的は、地域で生活している人々を対象とした看護を体験し地域保健・看護活動を実践できる基礎的能力を養うことである。本実習は、3学年後期10月、11月にわたる大学近郊の市町村役場と市内の訪問看護ステーションでの実習である。

市町村役場の実習は、上川町・当麻町・東神楽町・鷹栖町・上富良野町・富良野市でした。訪問看護ステーションは、例年受けて頂いている市内の5施設であった。講義・演習・実習を一貫させた教育プログラムの基に、看護技術演習、学生個々に実技試験を実施し、実習地に事前に出向き町の地区視診（地区診断）を行った。教育体制として恒例の実習指導者との実習評価会と実習打合会議を行い教員と実習指導者として綿密な実習準備を行った。

今年の学生評価は、昨年度と同様の4.2点であった。問1「事前に配布された資料を読む、予習をしましたかなど」、問2「実習に積極的かつ真面目に参加しましたか」のいずれも4.8点で、学生は意欲的に実習に取り組んでいたと思われる。3月に実習指導者と実習評価会議を実施した。その際、グループで取り組む「健康教育」は、どの実習先でも住民さんにも好評で指導者からも高く評価されていたが、学生個々においては、コミュニケーションが課題になることなどが話題になった。実習評価会の結果を次年度の実習に生かし、今後も学生にとって有意義な実習をめざしたい。

科目名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：61 配布数：61 回収数：61 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.4	4.7	4.4	4.6	3.9	3.9	3.8	4.2	3.6	3.7	3.8	4.3	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2	4.2	4.3	4.3									

＊評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅰコーディネーター 岡田 洋子

健康な小児を理解するために、小児の成長・発達、発達課題、基本的な生活習慣と養護等の学習を終了、「健康問題を有する小児の理解と看護」の学習開始前の3年次後期に1単位30時間で組まれている。

評価表が臨地看護学実習と同じため、看護過程や看護技術といった保育園実習評価として適合しない設問もあるが、最も高い評価項目は「実習に積極的かつ真面目に参加した」の4.7点、最も低い評価項目は「看護過程について、指導教員や実習指導者から適切な助言が得られたか」の3.6であった。子どもと接した経験が極めて少ない現代青年にとって、子どもからの積極的な誘い（遊び相手として）に助けられながら、自分を受け入れ・必要としてくれる子どもに助けられ、実習は楽しく、成長・発達を理解し子どもに慣れる貴重な体験の機会となっている。

科目名：老年看護学実習（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：61 配布数：61 回収数：61 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.6	4.7	4.3	4.2	3.5	3.8	3.9	4.1	4.2	4.4	4.2	3.8	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0	4.2	4.3	4.2									

＊評価に対するコメント

老年看護学実習コーディネーター 服部 ゆかり

学生の自己学習に関する2項目は4.6と4.7であり、例年と同じく自己評価は高い。

実習計画に関する4項目の平均は4.0であり、全体としては良い評価である。しかし、学生の人数と指導者数についての項目は3.5で昨年度より低い。昨年度は、病棟実習では学生4～5人に一人指導教員が配置できたが、今年度は、配置教員が一人少なく、そのことが結果に反映したと思う。看護学科の少ない教員をどう配置するかの問題が残されている。

実習内容に関する7項目の平均は4.1であり昨年度より若干高かった。今年度は通所サービスの見学実習を取り入れるなど、内容を一部変更したことも関係していると考えられる。今後も実習内容の充実に努めたい。

実習環境の3項目の平均は4.2であった。実習施設との関係は強まっており、実習環境も整ってきたと言える。

全体評価は、4.2で、実習施設の指導者の評価と同様であった。良い実習ができたと言える。今後とも努力したい。

科目名：地域保健看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年後期／必修）
 履修者数：69 配布数：57 回収数：57 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.5	4.5	4.4	4.1	3.6	4.3	4.2	3.5	4.0	3.0	4.0	3.6	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8	3.9	4.0	3.8									

＊評価に対するコメント

地域保健看護学実習Ⅱコーディネーター 北村 久美子

目的は、公衆衛生行政機関としての保健所の機能・役割を学ぶとともに公衆衛生にかかわる看護職の機能・役割を理解する、である。実習施設は、北海道庁から言い渡された上川保健所と富良野保健所と初めての实習先となった旭川市保健所であった。今年度も、保健所の実習指導者に大学まで来て頂き打合せ会議を開催し、その後も詳細に連携を取り実習準備を行った。昨年作成した実習マニュアルに基づき学生が実習に興味・関心が持て主体的に取り組めるよう工夫した。

その結果、18年度と比較しほとんどの項目は例年通りであった。学生自身の準備の状況は高い。指導体制として教員・指導者数の数は足りないが、連携はよくとれているという評価であった。指導者や教員からの適切な助言については、4.0で概ねよかった。カンファランスが有意義だったとする学生も増えた。低い項目は、看護技術体験の機会が3.0点であったが、昨年よりわずかに上がった。全体としての満足度は3.8点であった。学生の多くは看護師就職希望者であり保健師活動に関心を向けることは、例年並大抵のことではない。3月に実習指導者と実習評価会を行った。学生にとって満足感が得られ有意義な実習であるよう工夫していきたい。



▲鳥沼公園（富良野市）

医大祭2008が開催されました

去る6月13日（金）、14日（土）、15日（日）の日程で、本学の大学祭である「医大祭2008」が開催されました。今回は「Sun Rise」と題して新しい旭川医科大学を周辺の住民の皆さんに知っていただくという主旨により開催されました。一般公開日である土曜日はあいにくの曇り空ではありましたが、大勢の来場者が朝早くからフリーマーケットや模擬店にいられて大変盛況でした。特にゲームコーナーでは、小さなお客様がペットボトルをピンに見立てたボーリング??や輪投げに挑み大きな歓声を上げていました。恒例の音楽系団体によります医大祭コンサートは、合唱部のコンサートが看護学科棟大講義室を会場に開催され、室内合奏団のコンサートが病院玄関ロビーを会場に開催されました。それぞれの会場で、その歌声と演奏に沢山の聴衆が集まり心癒される一時を過ごしていました。また、医科大学という特性を生かした「医学健康ひろば」には老若男女沢山の方が救命救急講習、健康チェックコーナー、妊婦・老人体験・逆転めがね体験コーナーにてテーマに沿った医大祭を体験されていたようです（メタボチェックというのもありましたね）。午後からは、テレビの辛口コメンテーターとしても活躍している映画監督の井筒和幸氏によります学生との対話形式のトークショーが看護

学科棟大講義室にて開催され、予定時間を1時間もオーバーするという展開で大いに盛り上がっていました。夜は恒例の花火が打ち上げられ医大祭の夜を華やかに彩っていました。

翌日の最終日は、第7講義室において麻醉蘇生科学講座講師の間宮敬子先生によります「漢方ってなんだろう?～古くて新しい漢方のススメ～」と題した医大祭ならではの公開講座が開催されました。前日に続いてプラスアンサンブルによります医大祭コンサートが学生食堂で開催され沢山の聴衆が訪れ、その演奏に聴き入っていました。また、体育館にて恒例の「お笑いライブ2008」が開催され沢山の来場者で盛り上がっていたと思います??なお、青空のもと気温も上がり模擬店やゲームコーナーには沢山の来場者がいられたのは言うまでもありません。そんな中、国境なき医師団のパネル展示コーナーや顕微鏡コーナーで小学生ぐらいの男の子が真剣な顔で目を解かせていた姿が印象に残りました。最後になりますが、各学生団体や実行委員会並びにスタッフが、いろんなイベントに一生懸命に努力していた姿はすばらしいと感じました。来年も、今年以上に地域に開放された大学の姿を見せることができる医大祭を目指してほしいと心から願っています。（学生支援課）



▲ 模擬店



▲ 模擬店



▲ 模擬店



▲ ゲームコーナー



▲ テラス風景



▲ フリーマーケット



▲ テラス風景



▲ 古本市



▲ 救命講習2008

北海道地区大学体育大会バスケットボール大会が開催されました

7月4日(金)～6日(日)の3日間の日程で第55回(平成20年度)北海道地区大学体育大会(以下「地区体」という。)バスケットボール大会が旭川市総合体育館と美瑛町スポーツセンターの2ヶ所を試合会場として開催されました。今年度より3年間はバスケットボール(男女)が本学の分担種目となっております。開催期間中は連日30℃近くまで気温が上がり各会場のアリーナ内の室温は40℃近くまで達するほどの高温多湿の試合会場となりました。特に最終日である6日(日)に行われた男女の準決勝・決勝の試合は外の気温が33℃以上となったこともあり、参加した各大学の選手も汗だくで試合に奮闘しておりました。そのような熱い(暑い)闘いが繰り

広げられた大会ではありましたが、開催中は大きな事故もなく無事に終了したことを併せて報告します。

なお、来年度の「地区体」は、本学が当番大学となり分担種目であるバスケットボールのほかに陸上競技・卓球・柔道・硬式テニス(未定)の4種目を開催する予定となっております。開催種目となっている競技の学生団体に所属している学生はもとより、当番大学として所属以外の学生並びに教職員の皆様にも協力をお願いする可能性がありますので、その際は、よろしくお願ひします。

(学生支援課)



サマーコンサート開催される

合唱部「サマー・コンサート」

7月19日(土)午後3時00分より、病院玄関ロビーにおきまして「2008年度旭川医科大学合唱部サマー・コンサート」が開催されました。今回のコンサートは、春から夏を連想させる合唱曲・唱歌に加えてポップスを含めた全12曲が演奏されました。入院されている方々をはじめ来場された方々が暑い夏の一時を涼しい歌声に耳を傾けていました。

ギター部「サマー・コンサート」

7月21日(月)午後6時45分より、病院玄関ロビーにおきまして、本学ギター部によります「サマー・コンサート2008」が開催されました。このコンサートは、ギターの音色と歌声で入院されている方々の暑い夏の夜を少しでも安らぐようにと企画されたものです。当日は、休日の夜にもかかわらず近隣からも多数の方々が来場され、全12曲にわたる演奏に沢山の拍手が贈られていました。



音楽系4団体合同演奏会「音楽の夕べ」

7月26日(土)午後1時30分より、病院玄関ロビーにおきまして本学音楽系4団体によります合同演奏会「音楽の夕べ」が開催されました。

このコンサートはギター部、合唱部、室内合奏団、ブラスアンサンブルが自分たちの夏休みのひと時を利用して入院されている方々に癒しと安らぎの時間を提供し日頃の練習の成果を披露する場として病院職員の方々のご理解とご協力のもと毎年開催しています。

本年は合唱部が責任団体となり早くから開催に向けてポスターなどの準備をしていました。当日は、土曜日の昼間という忙しい時間帯にも関わらず入院されている方々はもとより、お見舞いの方々や近隣の方々が大勢来場され、それぞれの団体の趣向を凝らした演奏に対して掛声や手拍子、そして沢山の拍手にて盛り上げていただき、夏の日の一ときを楽しんでいただいたようです。

ギター部



合唱部



室内合奏団



会場風景



ブラスアンサンブル



体育大会が開催されました

夏休みも終わり急に季節が秋めいてきた8月27日(水)に体育大会が開催されました。今年の大会は、恒例のバレーボール、バスケットボール、ソフトボール、サッカーに加え新たにハンドボールが企画されました。当日は、天候が悪くソフトボールが中止となりましたが、体育館にて開催されましたハンドボール、バレーボール、バスケットボールには日頃の運動不足やストレスを解消するかのような熱戦が繰り広げられました。

また、午後からグラウンドにて開催されたサッカーも雨の中、熱いゴールを決めた姿に、日々の勉強や前期試験週に挑む意気込みを感じました。



▲「シュート」



▲ハンドボール



▲バスケットボール



▲バレーボール



▲「ご〜る!!」

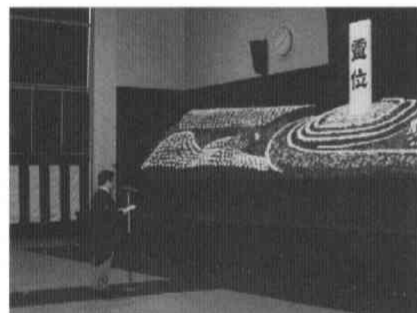
平成20年度解剖体慰霊式

平成20年度解剖体慰霊式が9月17日(水)午後1時30分より本学体育館において執り行われました。

慰霊式においては、本学学生等の教育及び学術研究用に尊い遺体を提供され、医学発展の礎石となられた方々の精霊の御霊に対して、ご冥福をお祈りするために黙とうが捧げられ、

引き続き吉田学長と学生代表(医学科第3学年下澤幸子)から追悼の辞が述べられました。

その後、御遺族と御来賓の方々並びに教職員、学生の代表からの献花が捧げられ、亡くなられた方々の御遺徳を偲びご冥福を祈念しました。



▲学長からの「追悼の辞」



▲学生代表からの「追悼の辞」



▲献花を捧げる吉田学長

大学内の土足解禁について

ご存知のとおり8月1日より大学内が土足解禁となっております。それにより外靴での大学内の移動が可能となりましたが、体育館(更衣室、トレーニングルーム含む)のように場所によっては以前と同様に土足厳禁のエリアがありますので注意して下さい。

また、以前に増して天候が悪い日などは廊下が汚れて滑りやすくなり転倒事故が発生する可能性が多くなると思われまますので、各入口にあるマットでしっかり汚れを落としてから移動して下さい。

なお、シューズ・ロッカーが撤去されたことにより(それ以前からですが)部活動等で使用すると思われる運動靴が学生玄関ロビー等に放置されております。心当たりの学生は速やかに自分のロッカーに収納して下さい。大学内において入学試験等の行事がある場合に会場設営の時点で放置したままの運動靴等はゴミとして撤去・廃棄となります。

その場合、大学では一切対応しませんので個々に責任を持って管理して下さい。

(学生支援課)

教員の異動

H20.6.30	辞職	医学部法医学講座	准教授	渡邊	智
H20.6.30	辞職	病院周産母子センター	准教授	田熊	直之
H20.7.1	昇任	病院手術部	准教授	国澤	卓之
H20.7.1	昇任	病院呼吸器センター	准教授	北田	正博
H20.7.1	昇任	医学部物理学	講師	安濃	英治
H20.7.1	昇任	医学部生物学	講師	日下部	博一
H20.7.1	昇任	病院第一外科	講師	赤坂	伸子
H20.7.1	昇任	病院麻酔科蘇生科	講師	間宮	敬子
H20.7.1	採用	病院第一内科	講師	川辺	淳一
H20.8.1	昇任	医学部放射線医学講座	講師	沖崎	貴琢
H20.8.31	辞職	解剖学講座（機能形態学分野）	准教授	濤川	一彦
H20.8.31	転出	社会学	准教授	松岡	悦子
H20.9.1	昇任	病院第一内科	講師	長内	忍

医大祭2008を終えて

旭川医科大学大学祭実行委員会

実行委員長 佐藤 雅



今年の医大祭も例年に勝るとも劣らない盛況となりました。そのことはもちろんうれしいのですが、今の感想としてはそれよりも無事終えることができたということにほっとしています。

今年の医大祭はテーマを「Sunrise」と設定し、地域に根ざし、新生旭医にふさわしい医大祭を目標にやってきました。私個人としてはそれを実現できたのではないかと考えています。お祭である以上、多くの方々にお越しいただいて楽しんでもらいたいという思いがあったので、宣伝、広報にはとくに力を入れたと考えていました。様々なトラブルが重なってポスターの作製が予定していたより遅くなり、多少の不安はありました。一般公開初日の土曜日は天候も思わしくなかったのですが、日曜日はそれを挽回するかのような快晴で、開始から終了までとても多くのお客さんでにぎわっていて、とてもうれしく思ったことを記憶しています。

反省点もあります。我々実行委員会の管理不行き届きの責任といえるようなトラブルもいくつか発生し、未然に防ぐことができなかったことがとても残念です。また、私自身医大祭のすべての段取りを完全には把握しておらず、種々の作業に遅れが生じてしまい、結果的に後片付けが深夜まで及んでしまっ

たことは深く反省しています。来年以降の実行委員会にはこういった反省点を是非汲み取って、トラブルのない医大祭を目指していただきたいです。

実行委員会の仕事は確かに大変で、とても根気の要ることでありました。しかし、この仕事を通してしか経験できない貴重な体験をいくつもさせてもらい、いろんな方々にお会いしてお話をさせてもらう中で、将来医療に携わるものとして、そしてそれ以前に一人の人間として、少しでも成長できたのではないかと思います。

最後になりましたが、実行委員会、学生支援課の皆様をはじめ、医大祭を成功させるために協力してくださったすべての方々に感謝いたします。



▲医大祭で賑わうテラス